

令和7年度 少年の塔慰霊祭

期日：令和7年9月20日（土）

「少年の塔慰霊祭」は、公益社団法人上伊那教育会の平和教育研修事業として位置づけられています。「上伊那各地より満蒙開拓青少年義勇軍として満州に渡り、再び祖国の地を踏むことのできなかつた青少年の御霊を慰霊し、永遠の平和を祈念する」という趣旨で、毎年行われている、教育会にとって大切な事業です。

慰霊祭に先立って行われた整備作業により整えられた環境の中で厳かに行うことができました。作業にご参加いただいた先生方、ありがとうございました。

今年度の慰霊祭も、一般の方にも参加者を募り、一般参加者11名を含む45名で執り行うことができました。



また、慰霊祭の中で平和教育研修として、元上伊那教育会長の矢澤静二先生より満蒙開拓青少年義勇軍及び少年の塔に関するお話をいただきました。

追悼の言葉

太平洋戦争終結から、八十年の歳月が過ぎました。王道楽土の理想に燃え、満蒙開拓青少年義勇軍として中国大陆に渡り、志半ばにして荒野に散った九十余名の若い御霊に、謹んで哀悼の誠を捧げます。

「満州は日本の生命線」と言われ、昭和七年に満州国が誕生しました。計り知れない資源と広大で未開の原野を開拓して「王道楽土」を築き、国内の人口・経済問題を解決すると同時に、軍事的にも北の守りを固めようとする国策の一環として計画された満蒙開拓。貴方方、義勇軍もその一翼を担わされました。

国家総動員体制が強化されていく中、上伊那教育会も教師自身率先して大陸に渡り、また上伊那義勇軍父兄会を組織するなど、国策として積極的に取り組み、昭和十二年から終戦までに郡下で約六百名となる義勇軍を送り出しました。そして、昭和二十年八月九日、対日宣戦布告したソ連軍が次々に大陸を南下、「王道楽土・五族協和」の夢は一瞬にして消え去り、関東軍の武装解除は大混乱を極め、多くの義勇軍が若き命を落としていくこととなりました。

教師らに教えられるまま、何の疑問も持たず純心に生き、そして異境の地で若き命を散らせた九十余名の貴方方。今、台上に立ち遙か遠くを見据える少年は、何をみつめ、どんな想いでいるのでしょうか。

今、日本や世界の情勢に目をやれば、いのちの尊さや平和に対する危機感を抱かざるを得ません。「新たな戦前」という言葉を使う方もいますし、私の勤める学校では、七夕の短冊に、「せんそうがおわりますように」と願いを書いた子どももいます。

私たちは今、ここに頭を垂れ、過ぎ去りし日々を思いを寄せると同時に、戦後八十年を過ぎてなお、この上伊那教育会の負の遺産を決して風化させることなく、これらを真摯に学びそして反省を続け、後世に伝えていくことを約束します。そして、永久平和への努力を改めて誓います。二度と、同じ過ちは繰り返しません。

九十余名の若き御霊よ、安らかにお眠りください。

令和七年九月二十日

公益社団法人上伊那教育会

会長

松崎善幸

少年の塔慰霊祭の様子

追悼の言葉
松崎 善幸 会長



矢澤静二 元会長による
平和教育研修会

参列者全員で
黙祷、焼香を行いました



矢澤先生の話に熱心に
耳を傾ける参列者

